



世界史 B 問題

はじめに、これを読むこと。

1. この問題用紙は、16 ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合し、確認すること。
3. 解答用紙の所定の欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定の欄にマークするか、または所定の欄に記述すること。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入しなさい。
6. 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。また所定以外のところには、絶対に記入しないこと。
8. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
9. 解答用紙は、持ち帰らないこと。
10. この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
11. この試験時間は、60 分である。
12. 解答をマークする場合の注意。

(マーク記入例)

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 次の文章をよく読み、下記の設問に答えなさい。

歴史の父といわれるギリシアのヘロドトスは、大旅行家でもあった。東方世界を見聞するため、黒海北岸からメソポタミア、エジプトにまで足を伸ばした。中国の大歴史家司馬遷もまた、中原を中心に何度も旅に出かけており、当時は遠方^aの地であった四川や雲南などへも足を運んでいる。

紀元前4世紀、アレクサンドロス大王の急死後、古代ギリシア語で後継者を意味する の一人^aで、アレクサンドロスの東方領を継承したセレウコス^aは、マウリヤ朝の創始者チャンドラグプタ王と講和を結び、互いに、使節を交換することにした。セレウコス朝からマウリヤ朝の都 に派遣されたメガステネースは長くインドに滞在し、帰国後『インド誌』を書いた。この書は後に失われたが、当時、インド案内として広く読まれたといわれる。それは、イベリア半島からインドまでの地理・歴史を叙述した、ギリシアの の『地理誌』にも、メガステネースが引用されていることからもうかがえる。

インド洋では夏の南西風と冬の北東風の季節風が定期的に吹く。古くより、この季節風を利用して、インドとアラビア半島・地中海を結んで貿易が行なわれてきた。この季節風貿易は、帝政ローマ時代に盛んとなり、東方からは絹や香辛料などが、西方からはガラス器、葡萄酒、金貨などが運ばれた。紀元1世紀にギリシア語で書かれた紅海からインド洋にかけての地理・物産の書『 』には、この貿易風のことを「ヒッパロスの風」と呼んでいる。

このような海洋貿易は、地中海・紅海からアラビア海・インド洋を経て、東南アジアから中国に通じる海上交易ルートに沿って発展した。ローマの金貨、インドの綿製品、東南アジアの香辛料、中国の絹などの特産品が盛んに取引された。このような交易ルートを「海の道」と呼ぶ。この交易ルートに沿うようにして、南インドの諸王朝や、東南アジアのチャンパー・扶南・シュリーヴィジャヤなどの諸国家が栄えた。これら東南アジアの海洋国家は交易を基盤に置く、港を中心に成立・発展した国家やその連合体であり、 と呼ばれる。

前漢・後漢^bを通じて約四百年つづいた統一国家が倒れた後、中国は分裂期を迎える。紀元3世紀から6世紀にかけ、長く続いた混乱の時期に、主に西域からた

くさんの仏教僧が中国に到来し、仏教の教えを広めた。そのなかでは、五胡十六国時代の二人のクチャ(亀茲)出身の僧、仏図澄と **カ** が良く知られている。**カ** は、インド人を父とし、クチャ王の妹を母として生まれ、若くして出家し、インド・カシミールなどで修業した。384年、クチャが前秦に攻略され、涼州に捕らわれの身となった。401年、後秦によって長安に迎えられ、般若経・法華経・維摩経ゆいまなどの仏教経典やナーガールジュナの『中論』を漢訳し、後世に大きな影響を与えることになった。

中国における仏教の興隆とともに、直接インドにおいて仏教を学びたいと願う多くの僧侶たちが、陸路・海路を辿り、幾多の困難を乗り越えインドに赴いた。なかでも、法顕の『仏国記』、玄奘の『大唐西域記』、義浄の『南海寄帰内法伝』は、いずれもインド、スリランカ、東南アジア諸国の古代史研究における、貴重な史料となっている。当時の日本にとって、中国は仏教先進国であり、多くの僧侶が遣唐使船に乗り中国を訪ねた。唐が衰退に向かう頃、中国を訪れた円仁は、10年ほど中国に滞在し、研鑽を重ねたが、武宗の仏教弾圧に遭遇する。この時、景教、祆教、マニ教も弾圧されている。帰国後、彼が書いた旅行記『入唐にっとう求法巡礼行記』は、唐末の中国社会、歴史地理を知る史料として重要である。

7世紀に誕生したイスラーム教は、ほどなく、西はイベリア半島から、東は中央アジアに広まった。多くのイスラーム教徒(ムスリム)が通商に従事した。西アジアや中央アジアの街道や都市には、隊商宿兼商業施設であるキャラバンサライが作られ、ムスリムの通商活動に便宜を与えた。イスラーム教の創始者ムハンマドは、メッカ巡礼をイスラーム教徒の義務の一つとした。巡礼のための宿泊所が、ムスリムが住む世界の各地に設けられた。『三大陸周遊記』の著者、**ク** の大旅行は、以上のようなムスリム=コミュニティのネットワークを利用してなしたものであった。

アッバース朝の衰退とファーティマ朝の勃興とともに、イスラーム世界の政治・商業・文化の中心は、バグダードからカイロに移った。それに従い東西交易のルートもアデン・カイロ・アレクサンドリアを経由する紅海ルートが優勢となった。12世紀から15世紀にかけ、エジプトのアイユブ朝・マムルーク朝の保護のもと、**ケ** と呼ばれるムスリム商人が活躍した。彼らは主に胡椒・香

料・陶磁器およびエジプト産の砂糖などを扱い、東西交易を行っていた。また、このようなイスラーム圏の東西交易は、ヨーロッパ各地に向け、ヴェネツィアなど北イタリアの諸都市が、地中海東岸地方において独占的に行っていたレヴァント貿易に繋がっていた。

東西交易の東のセンターは、中国であった。海路を経て中国沿海都市にやってきた各国商人たちは、広東・福建などの沿海都市に居留した。海上交易を管理するために、唐代中葉以降、広州に市舶司が置かれ、宋代には泉州、明州などにも市舶司が置かれた。ザイトンと呼ばれた泉州には、ムスリム商人など外国商人が居留し、蕃坊と称する居留地が設けられた。

13世紀にユーラシア大陸の東西に広がる大帝国を築いたモンゴル帝国は、その統治のため駅伝制を整えた。迅速な情報の伝達のほか、使節・軍人・官吏の移動をはかった。また、大運河を補修し、江南から渤海湾への海運を開いた。『世界の記述』(『東方見聞録』)で知られるイタリアの商人マルコ=ポーロは、このような世界帝国モンゴルの交通網を利用して中国にやってきた。また、大都生れのネストリウス派キリスト教徒であったラッパン=ソーマは、ハイドゥの乱のなか、エルサレム巡礼を目指しバクダードに赴いた。

大航海時代の到来とともに、ヨーロッパ人たちが、大挙してインドから東南アジア、中国へと向かう時代に入った。イエズス会を創立したイグナティウス=ロヨラ、フランシスコ=ザビエルはいずれもバスク人であった。バスク人は大西洋の鱈漁や捕鯨に従事し、すぐれた船乗り・航海者として知られていた。ザビエルが広州で病死した後も、イエズス会は、イタリア、フランス、ドイツなどの宣教師を中国に派遣し続けた。マテオ=リッチ、アダム=シャル、ブーヴェなど、イエズス会宣教師は、明末から清初の中国において、それぞれ足跡を残した。これらカトリックの宣教師たちは、任地の詳細な報告をローマ教皇庁に送っていたことでも知られる。

16世紀にカトリックに対抗して生まれたプロテスタントは、18世紀末あるいは19世紀初めからインド伝道を開始し、その後、東南アジア、そして中国への伝道に着手した。ロンドン伝道協会は、中国にロバート=モリソンを派遣し、モリソンは聖書の漢訳を進めている。アフリカ探検で知られるリヴィングストンも

また、ロンドン伝道協会によってアフリカに派遣された宣教師であった。プロテスタント宣教師は、それぞれの派遣団体に、任地における伝道の状況を詳しく報告したが、同時に、自分の家族、友人、教会関係者などにも多くの手紙を送り、インドや中国などアジア諸国の様子、彼らが伝道の対象としていた民衆の様子を伝えている。

19世紀以降、とくにその中葉以後、欧米におけるアジア情報は激増した。情報^eの発信者は、従来の外交使節・植民地行政官・宣教師・商人に加え、新聞記者や雑誌の寄稿者、日本や中国(清朝)など各国政府のもとで働く様々な分野の専門家たち(「お雇い外国人」)、東洋趣味の作家や画家、さらに動植物学・博物学・民族学・地理学などの研究者、および新種植物の発見に狂奔するプラントハンターらが加わった。

1860年代に中国を訪れたドイツの地理学者、リヒトホーフエンはその著書のなかで、古くからの東西交易における西域(東トルキスタン)・中央アジアを経由するオアシスの道を「ザイデンシュトラーセン(Seidenstraßen)」と名づけた。絹の道(シルクロード)のことである。その名前は、後に東西交易の各ルートに対しても用いられるようになる。リヒトホーフエンの学生であったスウェーデンの探検家 コ は、1890年代以降、中央アジアから東トルキスタンにかけて何度も探検し、楼蘭の遺跡を発見するなど、オアシスの道の発掘に努めた。

キ は不備があったため、全員正解にしたと大学から発表がありました。

また、本文はその関係から入試時のものから修正されている部分があります。

設問 1 文中の空欄(ア～コ)にもっとも適する語句を記入しなさい。

設問 2 文中の下線部(a～e)に関する下記の設問に、漢字で答えなさい。

- a 後漢の班固は、司馬遷『史記』を継いで、『漢書』を著した。その弟班超は西域の経営にあたった。97年、班超は部下をローマ帝国に向け派遣したが、その使者の名を記しなさい。
- b 166年、ローマ皇帝マルクス＝アウレリウス＝アントニヌスの使者が象牙・犀角・鼈甲などの南海の貢物をもって日南郡(ベトナム中部)に到着し、後漢の首都洛陽を訪れた。ローマ皇帝マルクス＝アウレリウス＝アントニヌスの中国名を記しなさい。
- c 唐末に勃発した農民反乱において、塩密売商人に率いられた反乱軍は、アラブ人、ペルシア人など多数の外国人が住む広州を攻略した。その後、この反乱は朱全忠や李克用によって鎮圧され、反乱の指導者は自殺した。この農民反乱の指導者の名を記しなさい。
- d 明代には江南を中心に産業が発展した。明末、宋応星が著述した産業技術書は何か。その名称を記しなさい。
- e 1858年、中国において内地旅行の自由、キリスト教布教の自由などを認めた条約は何か。その名称を記しなさい。

〔Ⅱ〕 次の文章(ア～ウ)をよく読み、文中の空欄(1～10)にもっとも適する語句を記入しなさい。

ア 2015年4月、アメリカ合衆国とキューバ両首脳の間で会談が行われた。半世紀以上も前の1961年、両国が国交を断絶して以来、初の首脳会談であった。歴史を振り返ると、1898年のアメリカ＝スペイン戦争で勝利を収めたアメリカ合衆国は [1] 条項を押しつけて、1902年、キューバを保護国化した。だがその後、1959年のキューバ革命によってバティスタ政権が倒されて、状況は一変した。新たに誕生した [2] 政権はソ連との関係を深め、社会主義を採用した。

キューバ革命の影響は他の中南米諸国へ波及し、民族運動・革命運動が盛り上がりを見せた。「第2のキューバ」の出現を恐れたアメリカ合衆国の [3] 大統領は、1961年に「進歩のための同盟」を提唱した。ところが、チリでは1970年に [4] 政権が誕生した。同政権は史上初の選挙を通じて誕生した社会主義政権であった。

イ 第二次世界大戦後、多くの発展途上国の独立が相次いだ。1955年にはインドネシアの都市 [5] で29ヵ国が参加してアジア＝アフリカ会議が開催され、「平和十原則」の宣言が採択された。また、貧困問題を抱える発展途上国の開発を促進するため、1964年、国際連合のもとで [6] の第1回会議がジュネーブにおいて開催され、その後、常設化された。

アフリカでは1957年にエンクルマ(ンクルマ)を指導者とする [7] が独立を果たし、1960年に [7] 共和国が誕生した。特にこの年はアフリカで、17もの独立国が誕生したことから、「アフリカの年」と呼ばれている。1963年、独立した30ヵ国のアフリカ諸国の首脳らがエチオピアに集まって会議を開き、アフリカ統一機構を設立した。その後、アフリカ統一機構は2002年に [8] へと発展・改組を遂げた。

ウ 開発独裁と呼ばれる体制のもとで工業化が進められたアジアでは、徐々に民主化運動が活発化した。ただし、それは多くの犠牲を伴うものであった。例えば、韓国では1979年に強権体制のもとで経済発展を進めた朴正熙大統領が暗殺された後、政治的自由を求める民主化運動が全国に広がった。そのような中、1980年に同国の南西部の [9] 市で民主化を求める運動が高揚し、 [9] 事件が発生した。

中国では1980年代以降、改革・開放政策の進展につれて、民主化への期待が高まった。その結果、1989年、 [10] 広場などに集まった人々は政府に民主化を要求したが、軍によって鎮圧された。これを [10] 事件という。

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み、下線(1～10)に関連するそれぞれの問(1～10)にもっとも適するものを(A～D)の中から一つ選び、解答欄にマークしなさい。

鉄は人類の歴史のなかで重要な役割を演じてきた。前17世紀半ば頃の小アジアに成立したヒッタイト王国¹は、その後強力な帝国を形成したが、彼らが軍事的に強化したのは、馬と戦車にくわえて鉄製武器を使用したことによるとされている。また、ギリシア²の叙事詩人ヘシオドスは『労働と日々』のなかで、人類は「黄金時代」「銀時代」「青銅時代」「英雄時代」をへて、自分たちが生きている時代は第5の「鉄の時代」であり、人間は昼夜を問わず労苦と難儀、すなわち労働に休むことがないとなげいた。しかし、鉄製の農具の出現は、世界各地で農耕の発展³をうながしたのであった。

鉄は炭素の含有量によってその性質が異なり、炭素含有量の最も多い銑鉄(鑄鉄)、鋼、そして炭素含有量の最も少ない鍛鉄に分類される。銑鉄は1200℃程度と最も低い温度で熔融するが、硬く脆く刃物などに加工することはできない。鍛鉄はやわらかく、鍛造は容易であるが、純粋な鉄に近づくと1500℃以上の高温でなければ熔融しない。人類にとって最も有用なのは鋼であるが、これが大量に生産できるようになるのは、19世紀になってからのことである。また、通常、地球上では鉄は酸化鉄の状態で発見され、そのままでは利用できない。人類がはじめて遭遇した酸化されていない鉄は、おそらく宇宙⁴から飛来した隕鉄であろうが、これを加工することは困難な仕事であった。人類が恒常的に鉄を利用するためには、鉄鉱石のなかにある酸化鉄から酸素をうばうこと、すなわち還元をする必要があった。

さて、鉄⁵の熔融温度は最低でも1200℃程度であったが、鉄の還元は700℃程度の温度で可能となる。いつの頃からか、人類は地面の穴のなかで鉄鉱石を木炭で加熱し、木炭が燃えるときに発生する一酸化炭素が鉄と結合している酸素をうばって二酸化炭素となり、鉄鉱石のなかにある酸化鉄が金属鉄になることを経験からおぼえた。できた粘りあめ状の塊から鉄でない部分を鍛錬・除去すれば、立派な鍛鉄となる。中世までの製鉄は、このように鉄鉱石から直接、鍛鉄をつくる直接法によっておこなわれていた。

新しい技術である高炉法がいつどこで発明されたかの確証はないが、遅くとも15世紀にドイツで普及していらい、最初に高炉で銑鉄をつくり、それを精錬、すなわち炭素を除去することによって鍛鉄をつくる間接法が主流となり、鉄の大量生産が可能となった。間接法はドイツから現在のベルギー・フランスをへてイギリスに渡り、サセックスのウィールドの森や西部のディーン森林地帯が、イギリスの主要製鉄地となった。

当時のイギリスでは造船のために木材の使用が制限され、木炭不足により製鉄業の発展が妨げられていた。そのため、イギリスはスペイン・ロシア・スウェーデンなどから鉄を輸入しなければならなかった。しかし18世紀前半にイギリスでコークス製鉄法が開発され、これにより銑鉄の製造に関しては、木炭使用の制約をまぬがれることができるようになった。鍛鉄製造のためには、その後、パドル法や圧延法が開発された。鉄は重要な貿易商品であり、鍛鉄はその形状が棒状であったため、棒鉄ともよばれた。棒鉄は、18世紀の大西洋三角貿易ではアフリカに輸出され、奴隷と交換される主要商品となっていた。

鋼が大量生産されるようになるのは、19世紀後半に溶けた鉄の中に空気を吹き込む転炉法が開発されてからであった。それは、欧米で大規模な鉄道網が敷設される時代でもあった。また、鉄鋼業は鉄道ばかりでなく戦争のための武器製造の主要産業となっていた。そのため、鉄鋼資源をめぐる各国の対立もたえなかった。第二次大戦後のヨーロッパでは、石炭・鉄鋼資源の共有をめざす共同体がつくられ、それがやがてヨーロッパの統合へと発展するのであった。

問 1 下線部 1 に関連して、古代オリエントに関する次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A アッカド人がバビロン第1王朝をたてた。
- B カッシート人がバビロン第1王朝を滅ぼした。
- C ヒッタイト王国はミタンニ王国によって滅ぼされた。
- D シュメール人が六十進法を発明した。

問 2 下線部 2 に関連して、古代ギリシアの文化に関する次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A アリストファネス・ソフォクレス・エウリピデスが「三大悲劇詩人」とよばれた。
- B パルテノン神殿はイオニア式の建築様式でたてられた神殿である。
- C フェイディアスがパルテノン神殿の「アテナ女神像」を作成した。
- D デモクリトスはイオニア学派の祖とよばれ、万物の根源を水とした。

問 3 下線部 3 に関連して、農業の発展に関する次の文章のうち、誤っているものを選びなさい。

- A 中国では春秋時代末期以降、鉄製農具の使用で農業生産がたかまった。
- B 11～12 世紀頃からアルプス以南のヨーロッパでは、重量有輪犁の使用により、農業生産が増大した。
- C 18 世紀前半のイギリスでは、ノーフォーク農法が開発され、休耕地をなくして飼料を育て、家畜と穀物の生産を増大させた。
- D アメリカでは 18 世紀末にホイットニーが綿繰り機を発明し、綿花生産量が増大した。

問 4 下線部 4 に関連して、暦や天文学に関する次の文章のうち、誤っているものを選びなさい。

- A エジプトでもちいられた太陽暦は、のちにローマで採用されてユリウス暦となった。
- B プトレマイオスのとなえた天動説は、イスラーム世界を經由してヨーロッパに伝わり、長く人々の宇宙観を支配した。
- C イタリア人のコペルニクスは天動説に疑問をもって地動説をととなえ、天動説をとっていた教会の世界観に挑戦した。
- D ドイツ人のケプラーは惑星運行に関する 3 法則を理論化し、地動説の教理的な基礎をうちたてた。

問 5 下線部 5 に関連して、「鉄」にちなんだ事柄についての次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A 15 世紀末、ポルトガル人が鉄砲を日本に伝えたとされている。
- B イギリス革命では独立派のクロムウェルが鉄騎隊を編成し、議会派を勝利に導いた。
- C ユンカー出身のビスマルクは、ヴィルヘルム 2 世から首相に任じられた後、議会で「現下の大きな問題は演説や多数決によってではなく、鉄(武器)と血(兵士)によって決定される」と演説した。
- D チャーチルはアメリカでおこなわれた演説で、ソ連がバルト海からエーゲ海まで「鉄のカーテン」をおろしていると述べた。

問 6 下線部 6 に関連して、19 世紀のドイツに関する次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A ドイツ関税同盟が結成され、オーストリアを含めた全ドイツ地域の経済的統一が達成された。
- B 「文化闘争」によってユダヤ教徒を抑圧した。
- C リストが自由貿易論を展開した。
- D ロシアとの間で再保障条約を結んだ。

問 7 下線部 7 に関連して、フランスの植民地支配に関する次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A スーダンでマフディーの反乱を鎮圧した。
- B フランスのモロッコ支配に抗議したイギリスとの間で、モロッコ事件がおこった。
- C 英仏協定の締結により、イギリスはモロッコにおけるフランスの支配的地位を認めた。
- D 3B 政策をすすめるドイツとの間でファシヨダ事件がおこった。

問 8 下線部 8 に関連して、15～16 世紀のスペイン及びスペイン領に関する次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A ナスル朝の首都コルドバを陥落させ、国土回復運動を完了させた。
- B ピサロがアステカ王国を滅ぼした。
- C マカオに対中国貿易の拠点をおいた。
- D ネーデルラントで北部 7 州がユトレヒト同盟を結成した。

問 9 下線部 9 に関連して、19 世紀のロシアに関する次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A ブガチョフの農民反乱がおこった。
- B 1848 年革命鎮圧の際、ハンガリーの民族運動を抑圧するなど、反革命の擁護者となり「ヨーロッパの憲兵」とよばれた。
- C クリミア戦争の講和条約であるロンドン条約で、黒海の中立化が決定された。
- D アレクサンドル 1 世がナロードニキの一派によって暗殺された。

問10 下線部10に関連して、ヨーロッパの統合に関する次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A フランス外相シューマンの提案により、ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体が発足した。
- B ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体に参加したのは、フランス・西ドイツ・ベネルクス 3 国であった。
- C イギリスはヨーロッパ共同体に参加することはなかった。
- D ヨーロッパ連合発足後にマーストリヒト条約が締結され、単一通貨ユーロの導入等が決定された。

〔Ⅳ〕 次の文章をよく読み、下線(1～10)に関連するそれぞれの問(1～10)にもっとも適するものを(1～4)の中から一つ選び、解答欄にマークしなさい。

西欧のキリスト教世界における戦争観は、大きく分けて三つのカテゴリーに分¹けられるという。一つは戦争全面否定論、二つ目は戦争全面肯定論、そして最後が条件付き戦争肯定論である。

そもそも原始キリスト教時代には、信徒たちは明解な見解を持っていなかった。彼らは²少数派であり、政治や軍事の問題にかかわることはあまりなかったからである。しかしローマ帝国においてミラノ勅令により公認されると、キリスト教は体制の宗教となり、³軍事的な役割も担わざるを得なかった。4世紀のミラノ司教アンブロシウスははじめて「正戦」を明確に承認し、その影響を受けた⁴アウグスティヌスがキリスト教世界に「正戦」という概念を定着させたと言われている。⁵彼によれば、平和を保障するという正当な目的があるときのみ、戦争は正当化され得た。

ローマ教皇自らが主導した⁶十字軍は、それ以前の正戦とは異なり、聖戦と考えられる。しかしまだ十字軍が行われていた時代に活躍した⁷トマス＝アクィナスは、十字軍の是非については明示しておらず、聖戦の観念には消極的だったとも考えられる。

16世紀になると、⁸ルターは、⁹オスマン帝国との戦争について書いた著作の中で、戦争をあくまで世俗の君主がこの世の平和のために行うものとし、宗教的な理由で戦争することを認めなかった。一方¹⁰エラスムスは、戦争を全面的に否定する道を選んだ。

問 1 下線部 1 に関連して、ヨーロッパのキリスト教化について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 ブルグンド王国のクローヴィスは、アタナシウス派に改宗した。
- 2 セルビア人は、ビザンツ帝国の支配下でギリシア正教を受容した。
- 3 クロアチア人は、フランク王国に服属していたが、ギリシア正教を受容していた。
- 4 チェック人は、ギリシア正教を受け入れた。

問 2 下線部 2 に関連して、初期のキリスト教について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 パウロの墓所とされる丘の上に、サン=ピエトロ大聖堂が建てられた。
- 2 福音書とは、マタイ・マルコ・ルカ・ピラトが書いたものとされる。
- 3 初期のキリスト教の一派に、パリサイ派があった。
- 4 『新約聖書』の一部に、黙示録がある。

問 3 下線部 3 に関連して、4～5 世紀にキリスト教世界で起こったことについて述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 ローマの神々を復活させようとしたユリアヌス帝が、教会から背教者と呼ばれた。
- 2 父なる神、子なるイエス、天使の三者は同質であるとする三位一体説が完成した。
- 3 コンスタンティヌス帝が、キリスト教を国教とした。
- 4 単性論とは、イエスに人性のみを認める説である。

問 4 下線部 4 の都市は中世にも発展した。これに関連して、中世都市について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 ノヴゴロドは、共和政体の自治都市であった。
- 2 リューベックは、ハンザ同盟の盟主となった。
- 3 ブルージュは、13～14 世紀に絹織物工業で発展した。
- 4 アウクスブルクは、フッガー家により金融業の中心となった。

問 5 下線部 5 に関連して、古代ローマ時代の作家について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 タキトゥスが『年代記』を著した。
- 2 ポリビオスが『国家論』を著した。
- 3 ホラティウスが『アエネイス』を著した。
- 4 プルタルコスが『ガリア戦記』を著した。

問 6 下線部 6 に関連して、十字軍に赴いた君主について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 フィリップ 2 世は、ジョン王からフランス国内の領土を奪った。
- 2 ルイ 9 世は、アルビジョワ派を制圧して南フランスを王領に加えた。
- 3 リチャード 1 世は、第 1 回十字軍に参加した。
- 4 フリードリヒ 2 世は、シチリア王を兼ねていた。

問 7 下線部 7 に関連して、中世の学問や大学について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 サレルノ大学は、イスラーム医術の強い影響のもとで発展した。
- 2 パリ大学は、法学を中心に発展した。
- 3 ロジャー＝ベーコンが『新オルガヌム』を執筆した。
- 4 ウィリアム＝オブ＝オッカムが『神学大全』を執筆した。

問 8 下線部 8 に関連して、宗教改革について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 ツヴィングリは、ジュネーヴで宗教改革を進めた。
- 2 カルヴァンは、『キリスト教綱要』を著した。
- 3 ヴォルムスの帝国議会では、ルター派の信仰が禁止された。
- 4 長老主義とは、カルヴァン派がとる教会制度のことである。

問 9 下線部 9 に関連して、15～16 世紀のオスマン帝国について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 セリム 1 世が、マムルーク朝を滅ぼした。
- 2 メフメト 2 世が、コンスタンティノープルを陥落させた。
- 3 バヤジット 1 世は、アンカラの戦いに敗れた。
- 4 スレイマン 1 世は、レパントの海戦に敗北した。

問10 下線部 10 に関連して、16 世紀の学芸について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 ボッカチオが『デカメロン』を著した。
- 2 ガリレイが、宗教裁判にかけられた。
- 3 ラブレールが『ガルガンチュアとパンタグリユエルの物語』を著した。
- 4 ファン＝アイク兄弟が、祭壇画をはじめとする作品を描いた。

〔V〕 イギリスにおける穀物法の撤廃について 3 行以内で説明しなさい。

